

阪神・淡路大震災を経験した兵庫県の国会議員が、東日本大震災の被災地支援に動き出した。震災後初めて衆院本会議が開かれた17日も、党内や被災地との調整に追われた。

民主党の山口壮衆院議員(兵庫12区)は克復旧・復興特別立法チームの中心メンバーとなり、本会議前に代議士会で検討内容を説明。震災1カ月後をめどに復興の基本方針に関する法案提出を目指すという。

高橋昭一衆院議員(同4区)は党のボランティア支援準備室を立ち上げ、所属議員にボランティア参加の意向を調

復興関連法案準備、被災地の要望集約…

兵庫選出の議員動きだす

査。国会議員ら90人が参加の意思を示し、週明けにも先遣隊を現地に派遣する予定だ。

仙台市出身の井戸正枝衆院議員(同1区)は、石井登志郎衆院議員(同7区)とともに党幹事長補佐として被災地の要望などを集約、政府との調整に専念する。

「与野党対立は棚上げで支援を」とする自民党では、谷公一衆院議員(比例近畿)が党の災害対策本部の中心となり、政府、与党に具体的な支援要望を伝えている。

一方、国土交通政務官の市村浩一郎衆院議員(兵庫6区)は、震災発生初日から被災地入りしている。